

4.2. 対外的発表

4.2.1. 東南海・南海地震に関する調査研究

(1) 東南海・南海地震の想定震源域におけるプレート形状等を把握するための地殻構造調査研究

(a) 成果の論文発表・口頭発表等

著者	題名	発表先	発表年月日
尾鼻浩一郎、小平秀一、伊藤亜妃、神谷眞一郎、金田義行	紀伊半島沖南海トラフにおける不整形地殻構造の沈み込みに関連した地震活動	日本地震学会 2006 年度秋季大会	2006 年 10 月 31 日
尾鼻浩一郎、小平秀一、伊藤亜妃、神谷眞一郎、金田義行	紀伊半島沖南海トラフにおける不整形地殻構造の沈み込みに関連した地震活動	ブルーアース '07' しんかいシンポジウム」	2007 年 3 月 9 日
Koichiro Obana, Shuichi Kodaira, and Yoshiyuki Kaneda	Seismicity related to heterogeneous structure along the western Nankai trough off Shikoku Island	Geophys. Res. Lett., 33, L23310, doi:10.1029/2006GL028179	2006 年 12 月 13 日
朴進午、鶴哲郎、野徹雄、瀧澤薫、佐藤壮、金田義行	High-resolution 3-D Seismic Reflection Survey in the Nankai Subduction Zone off Kumano of Kii Peninsula, SW Japan	日本地震学会 2006 年度秋季大会	2006 年 10 月 31 日
朴進午、鶴哲郎、野徹雄、瀧澤薫、佐藤壮、金田義行	High-resolution 3-D Seismic Reflection Study in the Nankai Subduction Zone off Kii Peninsula, SW Japan	米国地球物理連合 2006 年度秋季大会	2006 年 12 月 12 日
朴進午、鶴哲郎、野徹雄、瀧澤薫、佐藤壮、金田義行	High-resolution 3-D Seismic Reflection Study in the Nankai Trough off Kii Peninsula	ブルーアース '07' しんかいシンポジウム」	2007 年 3 月 8 日

4.2. 対外的発表

野徹雄、朴進午、鶴哲郎、瀧澤薫、小平秀一、金田義行、樋泉昌之、佃薫、清水賢、橋本結、柴田英紀、鈴木啓吾、高江洲盛史、小島信夫、溝田あゆみ、栗原梢、野口直人、井戸美帆	「かいいい」による 3次元反射法地震探査の実施と将来	ブルーアース '07' しんかいシンポジウム」	2007年3月8日
--	----------------------------	-------------------------	-----------

(b) 特許出願、ソフトウェア開発、使用・標準等の策定なし。

(2)(a) より正確な地震活動を把握するための海底地震観測研究

1) 成果の論文発表・口頭発表等

発表者	題名	発表先	発表年月日
中東和夫・山田知朗・望月公廣・酒井慎一・篠原雅尚・金沢敏彦・植平賢司・清水洋	長期海底地震観測データを用いた東南海・南海地震想定震源域における地震波速度構造	日本地球惑星科学連合 2006 年大会	2006.5.17
山田知朗・中東和夫・酒井慎一・望月公廣・篠原雅尚・金沢敏彦・桑野亜佐子・植平賢司・清水洋	東南海・南海地震想定域の地震活動	日本地震学会 2006年秋季大会	2006.10.31
中東和夫・桑野亜佐子・山田知朗・望月公廣・篠原雅尚・酒井慎一・金沢敏彦・植平賢司・清水洋	繰り返し長期海底地震観測による紀伊半島南海トラフの地震波速度構造	日本地震学会 2006年秋季大会	2006.10.31

2) 特許出願、ソフトウェア開発、使用・標準等の策定なし。

(2)(b) 想定震源域および周辺における地殻構造と地震活動の対比等に関する研究

1) 成果の論文発表・口頭発表等

なし。

4.2. 対外的発表

- 2) 特許出願、ソフトウェア開発、使用・標準等の策定なし。

4.2.2. 日本海溝・千島海溝周辺の海溝型地震に関する調査研究

(1) より正確な地震活動を把握するための海底地震観測研究

(a) より正確な地震活動を把握するための海底地震観測研究

1) 成果の論文発表・口頭発表等

発表者	題名	発表先	発表年月日
山田知朗・金沢敏彦・篠原雅尚・酒井慎一・望月公廣・中東和夫・山下幹也・高波鐵夫・村井芳夫・雨宮晋一郎・日野亮太・桑野亜佐子・山本揚二郎・佐藤利典・丸山友章	青森沖における長期海底地震観測	日本地球惑星科学連合 2006 年大会	2006.5.16
山田知朗・中東和夫・望月公廣・桑野亜佐子・山下幹也・酒井慎一・篠原雅尚・金沢敏彦・高波鐵夫・村井芳夫・雨宮晋一郎・日野亮太・山本揚二郎・佐藤利典・丸山友章	長期海底地震観測による三陸沖北部の地震活動	日本地震学会 2006年秋季大会	2006.11.2
桑野亜佐子・篠原雅尚・山田知朗・望月公廣・中東和夫・酒井慎一・金沢敏彦・日野亮太・高波鐵夫	長期観測型海底地震計を用いた震源分布による日本・千島海溝会合部におけるプレート境界面の形状	日本地震学会 2006年秋季大会	2006.11.2

2) 特許出願、ソフトウェア開発、使用・標準等の策定なし。

(b) プレート境界及びその周辺域の3次元地殻不均質構造の推定

1) 成果の論文発表・口頭発表等

著者	題名	発表先	発表年月日
Ariyoshi, K., T. Matsuzawa and A. Hasegawa	The key frictional parameters controlling spatial variations in the speed of postseismic slip	Earth Planet. Sci. Lett., 136-146, doi:10.1016/j.epsl.2007.01.019	2007年1月24日

4.2. 対外的発表

	propagation on a subduction plate boundary		
Ariyoshi, K., T. Matsuzawa, R. Hino and A.Hasegawa	Triggered non-similar slip events on repeating earthquake asperities: Results from 3D numerical simulations based on a friction law	Geophys. Res. Lett., doi:10.1029/2006GL028323	2007年1月27日
日野亮太	Seismic structure of the seismogenic subduction plate interface in the northeastern Japan arc	地球惑星科学関連学会 2006年合同大会	平成18年5月15日
有吉慶介・松澤暢・長谷川昭	速度強化域における摩擦特性と小アスペリティの破壊との関係	地球惑星科学関連学会 2006年合同大会	平成18年5月16日
内田直希・松澤暢・中山貴史・長谷川昭・本谷義信・一柳昌義・高田真秀・岡山宗夫・笠原稔	相似地震活動から推定された過去約10年間の十勝沖～釧路沖の準静的すべり	地球惑星科学関連学会 2006年合同大会	平成18年5月15日
内田直希, 松澤暢, 岡田知己, 長谷川昭, 今西和俊, W.L.Ellsworth	小繰り返し地震の発生の特徴とアスペリティ	日本地震学会 2006年秋季大会	平成18年11月2日

4.2. 対外的発表

有吉慶介, 松澤暢, 日野亮太, 長谷川昭	アスペリティ間の相互作用における摩擦特性の影響	日本地震学会 2006 年秋季大会	平成 18 年 11 月 1 日
Hino, R., A. Kuwano, Y. Yamamoto, A. Hasegawa, T. Yamada, M. Shinohara, K. Nakahigashi, K. Mochizuki, S. Sakai, Y. Murai, T. Takanami, and M.Yamashita	3D Seismic Velocity Structure Around the Rupture Area of the 1968 Tokachi-Oki Earthquake (Mw 8.3), northeastern Japan	2006 AGU Fall Meeting	平成 18 年 12 月 11 日
Ariyoshi K., T. Matsuzawa, R. Hino, A. Hasegawa	Possibility of non-similar event occurrence at an asperity on a subduction plate boundary inferred from numerical simulations based on a rate- and state-dependent friction law	2006 AGU Fall Meeting	平成 18 年 12 月 14 日
Uchida, N., W. L.Ellsworth, T. Matsuzawa, K. Imanishi, T. Okada,	Seismic activities around an M4.8 'characteristic earthquake' sequence off	AGU 2006 Fall Meeting	平成 18 年 12 月 11 日

4.2. 対外的発表

A. Hasegawa	Kamaishi, NE Japan		
-------------	-----------------------	--	--

2) 特許出願、ソフトウェア開発、使用・標準等の策定
なし。

(c) アスペリティ周辺の地震活動の特性に関する研究

1) 成果の論文発表・口頭発表等
なし。

2) 特許出願、ソフトウェア開発、使用・標準等の策定
なし。

(2) 過去の地震活動などの調査

(a) 成果の論文発表・口頭発表等

著者	題名	発表先	発表年月日
Umino, N., T.Kono, T.Okada, J.Nakajima, T. Matsuzawa, N.Uchida, A.Hasegaw, Y. Tamura and G. Aoki	Revisiting the three M~7 Miyagi-oki earthquakes in the 1930s: Possible rupturing of asperities that caused the 1978 M7.4 Miyagi-oki earthquake	Earth, Planets and Space	2006
海野徳仁・河野俊夫・ 岡田知己・中島淳一・ 松澤 暢・内田直希・ 長谷川昭・田村良明・ 青木 元	1930 年代に発生した M 7 クラスの宮城県沖地震の震 源再決定 - 1978 年宮城県 沖地震のアスペリティでの くりかえしすべりだったの か? -	地震第 2 輯	2007

(b) 特許出願、ソフトウェア開発、使用・標準等の策定
なし。

(3) 広帯域高ダイナミックレンジ孔井式地震計の開発

(a) 成果の論文発表・口頭発表等

なし。

(b) 特許出願、ソフトウェア開発、使用・標準等の策定
なし。